

【講演日時】 2020.5.9(土) 18:16～18:21

【講演場所】 FM さがみ 「それゆけ！月光団本部」の「相模原市少年野球最新情報」コーナー

【講演者】 相模原市少年野球協会 審判部長 壇上英二さま

【テーマ】 70 球の球数制限

【講演内容】

- 球数制限に関しては、選手の肘・肩に障害を持つと指定された選手に対して 2011 年に「1 試合しか投げられない」というところから始まり、翌年の 2012 年から「1 日 7 イニング」という投球制限が課せられるようになった。「70 球」という制限ができたのは 2019 年であり、これは全国大会のみ適用される形を取り、それを受けて相模原市では、1 年後の 2020 年から採用することとなった。
- 5 年生以上が 1 日 70 球以内、4 年生以下が 1 日 60 球以内。
- 試合中に 1 日 70 球に達した時点でその投手が交代するのか？
 - そうではなく、その時の打者が「打撃を完了する」まで投げ続けることはできる。「打撃を完了する」というのは、その打者が出塁するかアウトになるまでのこと。打撃が完了しなくともその打者で 3 アウトとなりイニングが終了になった場合は、その次の回から交代する形となる。
- それは盗塁や牽制でアウトになった場合も含まれるのか？
 - そのとおり。
- そもそも牽制球自体はどうなるんですか？
 - 牽制球や投手が投手板を踏まずに投げた場合、これを「送球」と呼んでいるが、それはカウントしない。ポークの場合は、打者に向かって「投球」した時は投球数にカウントする。
- タイブレイクの場合は、タイブレイク直前まで投げ切った投手が 7 イニングを超えて投げ続けることができるが、これと同様、70 球制限についても 70 球 + α ということはあるのか？
 - いいえありません。あくまで 1 日の規定投球数(70 球)以内となる。
- 例えば少年野球の大会でも最終日には準決勝と決勝が重なる場合もあるが、それぞれの試合で 70 球となるのか？
 - いいえ。1 日の規定投球数という扱いとなるため、2 試合となった場合でも 1 日を通して 70 球以内となる。例えば準決勝で 30 球投げた場合、決勝では 40 球まで投げられる。決勝での 40 球目、つまり 1 日を通していうと 70 球目に達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投げ切ることができる。
- 70 球というと結構な球数ですが、どのように数えていくのか？
 - 投球数のカウントに関しては大会本部で行う。具体的にはバレーボールやバスケットボールのように各チームの得点を得点盤で表示しているが、そのような方法を活用して 1 球ずつカウントしていきながら、周りで見ている人達にも「今、何球なんだ」ということを明示させる形を取っていく。
- 大会本部はずっと見ていなきやいけないですね。大変ですね。
 - そうですね、しかし選手の安全と健康のためです。

以上